

# 中田 武司教授を送る辞

板 坂 則 子

二〇〇四年三月に、中田武司教授が本学を去られました。

中田先生が本学に着任されたのは一九六六年四月、すなわち文学部が専修大学に設置された記念すべき年の事です。先生は文字通り、専修大学文学部と共に生まれ、その歴史を背負ってこられた方といえましょう。先生がご就任されてからの三十八年はそのまま文学部の今日の隆盛へ至る日々と重なり、その間、国文学科長、専修大学評議員、専修大学理事など、多くの要職を務められました。その中でも特に私たちの記憶に残っておりますのは、昭和五九年から平成六年の長きに亘って務められた専修大学図書館長としてのお姿です。

専修大学付属図書館は、蜂須賀家旧蔵本の「長秋詠藻」「三筆 古今和歌集」「源氏物語 系図」等や今出川家に伝わる諸記録「菊亭文庫」をはじめ、数多くの貴重書を蔵することで広く知られております。それらの紹介を試みた豪華な複製本「専修大学図書館蔵古典籍影印叢刊」も刊行され、さらに目録として「専修大学図書館所蔵蜂須賀家旧蔵本目録」「専修大学図書館所蔵菊亭文庫目録」等が作成され、斯界に貢献していますが、これらはひとえに学問への真摯な態度を貫かれた先生のご指導のためものであります。

先生のご研究の専門領域は平安時代の物語や和歌、そして日記などの多岐に亘り、多くの業績を挙げられ、文学界を代表する研究者としての名声を得ておられます。また「日本文学風土学会代表理事」をはじめ、「中古文学会代表委員」や「全国大学国語国文学会理事」などの重責を果たしてこられました。その著書は『王朝歌物語の研究と新資

料」では「伊勢」「平仲」「大和」の三物語の成立と享受を鋭く論じて「伊勢物語」等に関する新資料を紹介され、また『古今和歌集の形成』をはじめとする韻文研究、『岷江入楚』全五巻という大部の源氏の古注釈研究、さらに『白馬節会研究と資料』『元日節会研究と資料』などの有職故実の方面でも活躍され、ご活躍の幅の広さに驚かされます。そののみならず近年、『田中大秀』全十巻という大部の全集を出されましたことは、江戸期のみを研究対象としております身として、とうとう江戸後期の国学者の世界をこれほど細密に採り上げられたか…と驚きを禁じ得ませんでした。

また、先生は学生、院生の指導にも熱心に取り組まれ、多くの有望な研究者を育てておられます。指導を受けた若き研究者たちの中田先生への渴仰は甚だしく、御講義の教室でも第一列は先生のゼミ生たちが争って座るありさまを仄聞しております。二〇〇一年五月には、専修大学神田校舎にて中古文学会春季大会が開催され、中田ゼミと小山ゼミの院生たちと共に神田校舎をあちこちと動き回ったことも懐かしく思い出されます。

そのような研究、教育双方に熱心に取り組まれておられる先生が、ご健康を考慮されて御定年まであと一年を残しての勇退を決意されましたことは、私たちにとつても先生にとつても残念なことであり、筆舌に尽くしがたい思いがあります。どうぞお体を愛おしまれ、一日も早いご本復をなさいますよう、そして今後共に若い研究者を育てて下さいますようお願い申し上げます。

思いを言葉に尽くせませんが、日本語日本文学会を代表し、中田武司先生への感謝の気持ちをこめて送別の辞とさせていただきます。

二〇〇四年四月